

平成20年度和歌山県立中学校適性検査作成の基本方針

作成の基本方針

県立中学校での学習や生活への適性等をみるために、以下のア～ウを作成の基本方針とし、教育課程の特色等を踏まえた問題を作成する。

ア 小学校学習指導要領に基づき、作成する。

イ 小学校で学習した基礎的・基本的な内容をもとに、思考力、判断力、表現力等が身についているかどうかをみる。

ウ 日ごろから身近な事象に関心をもち、そこで生じた疑問を自ら解決しようとする意欲や課題解決能力が身についているかどうかをみる。

【平成20年度 適性検査Ⅰ 解答例】

研究1	課題1	<p>(例)</p> <p>ホットケーキ1枚あたりの牛乳の量は $\frac{100}{8}$ ml</p> <p>66枚分の牛乳の量は $\frac{100}{8} \times 66 = \frac{6600}{8}$</p> <p style="text-align: center;">= 825 (ml)</p> <p>したがって、牛乳の余りを少なくするには、900ml分の牛乳パックを買えばよい。</p> <p>牛乳パックの買い方 (200mlの牛乳パック2個、500mlの牛乳パック1個)</p>
	課題2	<p>(例)</p> <p>カップケーキを3皿分12個作り、ドーナツを3皿分24個作るとすると</p> <p>小麦粉は $50 \times 3 + 160 \times 3 = 630$ (g)</p> <p>砂とうは $40 \times 3 + 32 \times 3 = 216$ (g)</p> <p>となり、作ることができる。</p> <p>カップケーキを5皿分20個作り、ドーナツを2皿分16個作るとすると</p> <p>小麦粉は $50 \times 5 + 160 \times 2 = 570$ (g)</p> <p>砂とうは $40 \times 5 + 32 \times 2 = 264$ (g)</p> <p>となり、作ることができる。</p> <p style="text-align: center;"> $\left[\begin{array}{l} \text{カップケーキ} \ 3 \text{皿} \\ \text{ドーナツ} \quad \quad 3 \text{皿} \end{array} \right] \quad \left[\begin{array}{l} \text{カップケーキ} \ 5 \text{皿} \\ \text{ドーナツ} \quad \quad 2 \text{皿} \end{array} \right]$ </p>
研究2	課題1	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 汚れた空気を出したり、多くの二酸化炭素を出したりせずに発電できるかん境にやさしい発電方法だから。 ・ 地熱や太陽光、風力は自然の中にあるずっと使えるエネルギーなので、資源がなくなる心配がない発電方法だから。 <p style="text-align: right;">など</p>
	課題2	<p>みどりさんの予想</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各家庭のエアコンの台数が増えるなど、家庭内での電化製品が増えていくから。 ・ 技術の進歩により、新しい家庭用電化製品が次々に開発されるか

【平成20年度 適性検査Ⅱ〔向陽中学校〕解答例】

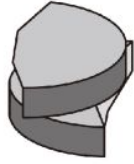
研究1	課題	<p>(例)</p> <p>絵 : 底から点線までに水てきがついている様子。</p> <p>(例)</p> <p>説明 : 冷たい牛乳が入っている部分の周りの空気が冷やされ、空気中の水蒸気が、小さな水てきとなって牛乳パックの周りについていたので、そこまで牛乳が入っていると判断できた。</p>	
研究2	課題1	<p>(左のモビール) バナナ</p>	<p>(右のモビール) りんご</p>
	課題2	<p>(左につるすおもり) (例) りんご4、ぶどう1 など</p>	<p>(右につるすおもり) (例) ぶどう4 など</p>
研究3	課題1	<p>(例)</p> <p>1個とばしに行くのだから $90 \div 2 = 45$ 90個目のブロックは45歩目でふむことになる。 45歩目は、き数だから右足でふむことになる。</p> <p>90個目のブロックをふんだ足 (右足)</p>	
	課題2	<p>(例)</p> <p>1個とばしでは、2の倍数、2個とばしでは、3の倍数のブロックをふむ。初めて2人が同じブロックをふむのは、2と3の最小公倍数である6個目であるが、ちがう方の足となる。同じ方の足でふむのは、次の公倍数である12個目のブロックになる。</p> <p>みどりさんは、$12 \div 2 = 6$で6歩。 あきらさんは、$12 \div 3 = 4$で4歩。 2人ともぐう数の歩数になるから左足でふむことになる。 12個目ごとに同じ方の足でふむことになり、これをくり返すから $90 \div 12 = 7 \cdots 6$ となり、7個のブロックを同じ方の足でふむことになる。</p>	

同じ方の足でふんだブロックの数(7個)
 どちらの足 (左足)

研究 4

課題 1

(例)

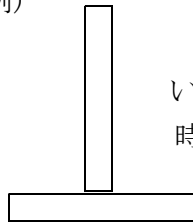


割れる前はまるい磁石の表とうらが別々の極になっ
 ていたが、2つに割れると両方の表どうしうら
 どうしが同じ極になっているので、表とうらが
 引き合う形でくっつく。

(特別な加工がされている磁石は、別のくっつき
 方をする場合がある。)

課題 2

(例)



棒磁石の真ん中は、引きつける力がとても弱
 いので、図のように近づけてくっついてこない
 時、下に置いた方が磁石であることがわかる。

研究 5

課題

(例)

